

令和 8 年度

熊本県立大学 環境共生学部

環境共生学科 居住環境学専攻

一般選抜(後期日程) 個別学力検査

小 論 文

問 題 用 紙

- (1) 問題用紙は、この表紙を含めて5ページあります。
- (2) 問題は、全部で2問(問題Ⅰおよび問題Ⅱ)あります。2問とも答えなさい。
- (3) 答えは、必ず解答用紙に記入しなさい。
- (4) すべての解答用紙の所定の欄に受験番号、氏名を記入しなさい。
- (5) この問題用紙は、持ち帰って結構です。

(入試問題は、4 ページからです。)

(入試問題は、4 ページからです。)

次の問題Ⅰおよび問題Ⅱについて答えなさい。

問題Ⅰ

子どもの外遊びは、身体性、自発性、社会性、創造性を育む上で重要な役割を果たすと言われている。しかし近年、ライフスタイルや地域コミュニティ、居住環境の変化などにより、外遊びの場やそのきっかけが減少している。その対策として新しい遊び場をつくるだけでなく、既存の公園、道路、空き地などの空間を活かした新たな取り組みが生まれている。また、外遊びを促す活動や、外遊びに対する地域での認識を変えようとする取り組みなどもある。

住宅地において子どもの外遊びの場やそのきっかけを増やすためにはどのような対策が考えられるか、子どもだけでなく多様な住民の観点も含めて、あなたの考えを具体的に500字程度で述べなさい。

問題Ⅱ

次の図は、我が国における2000年度と2022年度の物質フローを示したものである。各年度の図の左側部分で輸入資源の輸入量や国内資源の投入量、循環利用量などを示し、右側部分で社会に蓄積された量や廃棄物の発生量、最終処分量などを表している。この図から読み取れる変化を簡潔に説明したうえで、その変化を踏まえ、今後の日本社会が持続可能な発展を実現するためにどのような取り組みを進めていくべきか、あなたの考えを600字程度で述べなさい。

著作権保護の観点から、図は掲載していません。

出典：環境省編 令和7年版 環境・循環型社会・生物多様性白書 第2部 各分野の施策等に関する報告 第3章
循環型社会の形成 p.152